

The Magazine for the Members Elite

Sevenseas

セブンスーヅ

9

September
2001
Number 137

Special Features
*La Bella
Vita
Italiana*

美の使徒たち



特集
イタリア 2001

カプリ島には洗練されたブティックが軒を連ねるカプリと、牧歌的で穏やかな表情を持つアナカプリというふたつの地域がある。静かな佇まいのサン・ステファノ教会の裏の小道。



La Bella
Vita
Italiana



Isola di Capri, Italy

photographs & text by NAGATSUMA Ayoko
cooperation by Italian State Tourist Board

崖上の洞窟よりナポリ湾を見渡す。眼下には観光客で賑わうマリナー・グランデとはまた違った趣のある入り江。

甘美なる非日常への逸脱

誘惑の島、カプリ 燦々と降り注ぐ陽射し、涼やかに吹き抜ける風、限りなく広がる蒼空と碧瑠璃にきらめく大海原、そして島の周囲17kmは大胆に屹立した海岸線と奇妙な形の岩礁によって縁どられている。「青の洞窟」に代表される繊細さとダイナミクスを兼ね備えた詩情あふれる景観美によって、古代ローマ時代のアウグストゥス皇帝からハリウッドスターまで、多くの著名人、知識人、芸術家を魅了し続けてきた島、カプリ。ヨーロッパはもとより世界でも有数のリゾートアイランドとしてその名を轟かせ、究極のパカンスを求める人々が集う洗練されたコスモポリタンな島へと発展を遂げた現在もなお、若やく、躍動している。

しかしその発展は、観光地にありがちな経済至上主義によるものではなく、島民自らの歴史と伝統に対する尽きることのない敬意と愛情によって成し遂げられたものである。そのことは何より彼らの生命力にみちた生活や誇らしい笑顔が物語っている。40万年にも及ぶ島の歴史と語り継がれる数々の伝説、そしてカプリの伝統と意匠の継承者たち。歴史と現在が共存し、独自のリズムで時間を刻み続けるカプリ島。その魅力をここに紹介しよう。

CAPRI PALACE Hotel & Spa

00171 Isola di Capri via Capodimonte, 26
tel. +39 081 978 0111
fax +39 081 837 3191
e-mail: INFO@CAPRI.PALACE.COM



サロンの暖かさを高めるのはミクソ色のコンテンポラリー・アーティスト、ヤムパトーレ・ゴッラの作品。クラシックとコンテンポラリーが調和するモダンな空間を演出している。

甘い倦怠
贅を知り尽くした
セレブリティィーが選ぶ、
大人の為の空間

カプリ・パレス ホテル&スパ

カプリの喧騒と無縁な静寂を、隠れ家的な宿として名高い「カプリ・パレス」は五つ星ホテルラックスという栄誉を与えられた、まさに究極のリゾートホテル。清らかな花の香りが漂うエントランスホール、クラシカルな地中海スタイルの建築は、もとは貴族の邸宅だった。乳白色を基調とする清潔なインテリアにルイ十六世時代のアンティーク、エキゾチックな調度品が上手に融合したサロンは古代ローマの貴族的優雅さをも兼ね備え、独特の雰囲気を醸し出している。



カプリ・パレスは、リゾートとしての機能がほぼ完全に停止してしまいうシーズンオフの時期を利用して毎年リニューアルを施す。歴史ある建物でありながら最先端の設備と清潔さをゲストに提供できるよう心掛けていたため、訪れるたびに新しい一面を発見できる。現状に安住しない、慣らしやかきでいて向上心を持ち続ける姿勢がホテル全体を伝えている。ホテルではプライベート・ヘリコプター、高速モーターボートなどのチャーターも可能。カプリからのエクスカーションにぜひ利用したい。

カプリ・パレスは、リゾートとしての機能がほぼ完全に停止してしまいうシーズンオフの時期を利用して毎年リニューアルを施す。歴史ある建物でありながら最先端の設備と清潔さを



上：サロンへ通じる階段
下：コンシェルジュの滞客も日ごと変わる絶景の観光地ならではの、香り：香しいサロン入り口のフラワーアレンジメント。



ホテルの1セブションホール、プールを囲く天幕の廊下と空間の暖かさを演出している。



「豚の頬肉のベーコンを巻いた
塩の燻肉のグリル、カプリ産レ
ーズンと松の実をちりばめて、
パピレタスのサラダ添え」
豊かに香るバルセミコが食欲を

そそる。ほどよい塩加減が肉の
旨味を引きだし、その風味とレ
ーズンの甘味、松の実の香ばし
い歯ごたえが素晴らしいバランス
を生み出している。

Double deluxe seaside
ハイシーズン / 920,000 リラ
オフシーズン / 700,000 リラ。
部屋の間から眺めるカプリの海
は最高の眺め。



**至福の時間がたおやかに
流れる空間で、いつまでも
まどろんでいたい……
ゲストルーム**

カプリ・パレスの八十二のゲスト
ルームはそれぞれが個性的な魅
力を有する。部屋数の意外な少な
さは、しかしゲストひとりひとりの
要望に応えられる繊細なサービ

スを可能にしてい
る。

その中のひとつ、
ギリシャ神話の月
のミニエーズの名を
冠するゲストルー
ム「ARTEMIDE」
は、その名にふさわ
しくフェミニン
な気品が漂う豪華な空間。エレガ
ントな楕円のバススタブは女性の憧
れ。官能的なバススタブを演出し
てくれるに違いない。テラスから
臨むナポリ湾の景色も格別だ。



シックなインテリアは、イタリア、
カプリというロケーションの中
で独特のムードを醸し出す。

**輝かしい健康美を求めて
カプリ・
ビューティ・ファーム**

カプリ・パレスの名を世界的に
知らしめている最大の理由のひとつ
が「カプリ・ビューティ・ファーム」
のスペシャル・トリートメント・
プログラムだ。

瘦身、美顔といった美容にとど
まらず、体の内側からきれいにする
――そんなビューティ・ファーム
のスタッフは全員医学療法に通
じるスペシャリスト。まず、ゲスト
ひとりひとりを丁寧に診察し、
それぞれの症状に見合ったプログ
ラムが作成される。高血圧、不眠
症、関節痛、倦怠症、更年期障害

など、原因がは
っきりつかめな
い症状に効果の
ある免疫力を高
めるプログラム
「アンチ・エイ
ジング・セラ
ピー」、美容を
はじめ、循環器
系疾患治療にも
効果的な「タラ
ソセラピー」、また、呼吸器系疾
患、アレルギー、腰痛や関節痛な
どの治療を目的とした物理療法な
ど、独自のプログラムも充実して
いる。一週間で徹底的に施さ
れる美容、瘦身プログラムはゲスト
ルームで受けられるので、とく
にプライベートを守りたい著名人
に人気がある。



ビューティ・ファームへと通じ
る階段。落ちついた空間がよま
るで住まいのようだが、設備も
スタッフも最先端である。

GUESTROOMS

Capri Beauty Farm



上：テラス席の開放感も捨てが
ない。ダイニングの外の落ち
着いた雰囲気もまたよし。
中：店内の小さなライブラ
イブ。
下：プールサイドのテラス席。



main dining "L'OLIVO"

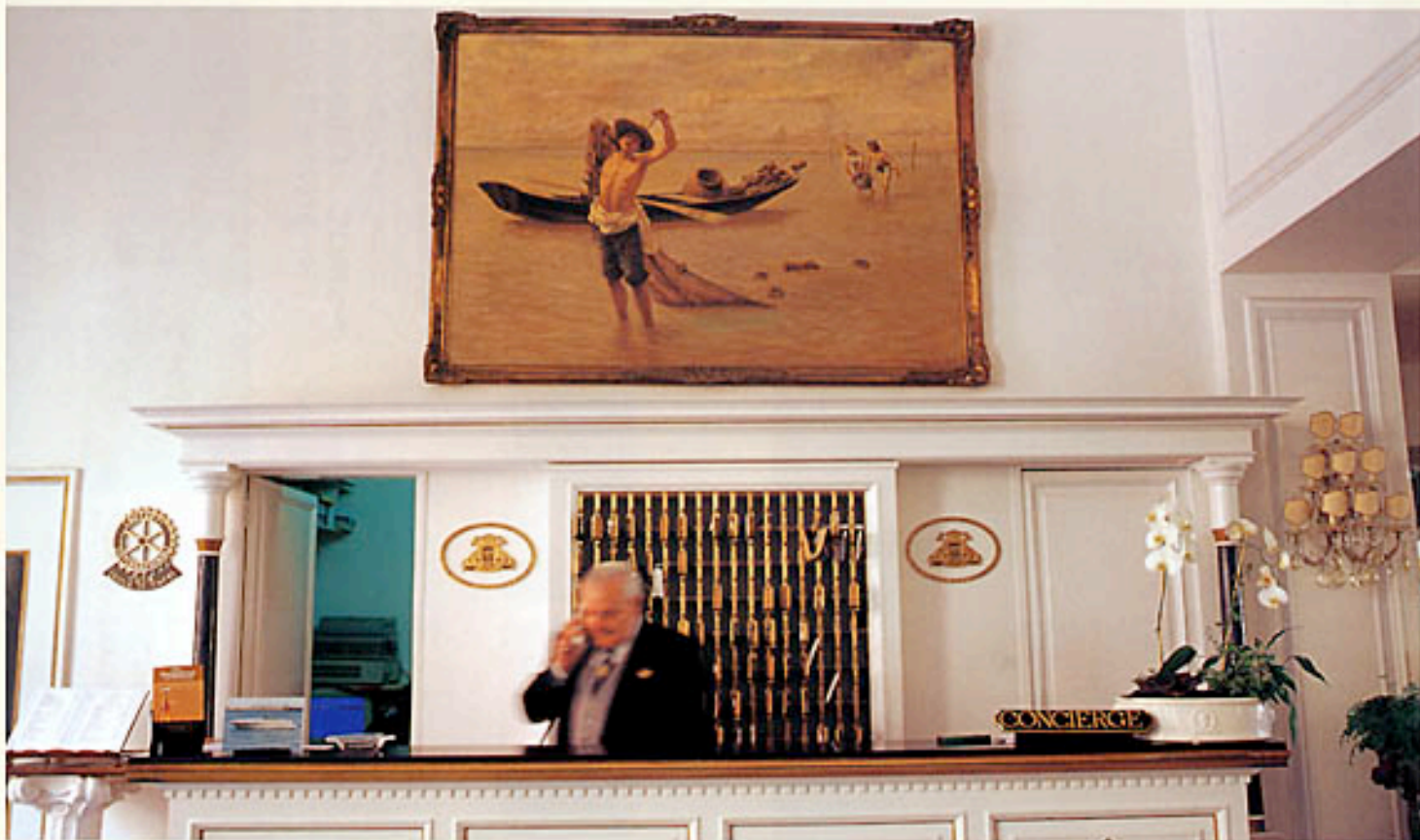
**美味礼讃
「L'OLIVO」の極上
メイン・ダイニング**

メイン・ダイニング「L'OLIVO」
では、シニフ、アントネッロ・コ
ロンナによって供される洗練され
た珠玉の皿の数々に、世界中の美
食を征服したエビキエリアンたち
の口元も思わず緩んでしまう。美

しい色彩とふくよかな香りが食欲
を刺激する芸術的な料理に魅惑さ
れ、足繁く通うゲストがとぎれな
い。フレッシュな空気と理想的な
陽射し、プール・サイドの開放的
な環境で味わう食事とサービスは
リゾートアイランドにふさわしい
スタイルだ。

Grand Hotel Quisisana

80037 Capri Via Camerello, 2
tel. +39 081 837 0788
fax. +39 081 837 6080
e-mail. info@quisi.com



レセプションカウンター。英国風の落ち着いた雰囲気はここにも漂う。

ヘミングウェイ、サルトルも愛した イングリッド・シユ・スタイルの館

グランド・ホテル・クイシサーナ

ファッショナブルなカプリの町の中央に構える「グランド・ホテル・クイシサーナ」はカプリ・パレスとともに双頭の鷲とも呼ばれるホテルだ。

一八四五年、イギリス人医師であるジョージ・クラークによって創業された。当初はサナトリウムであったが、一八六八年にペンションとしてリニューアルされた。

一九八二年、カプリ出身の貴族、モルガノ家がホテルの所有権を得ると、数年のうちに五つ星ホテルと名を冠し、以来カプリのシンボルの存在として現在に至っている。英国風で落ち着いた雰囲気の



「クイシ・バー」は街の喧騒と完全に隔離された格調高い静かな空間。ゆったりとした大人の時間を愉しみたいセレブリティのための空間である。隣接する「クイシサーナ・テラス・バー」は、それとは対照的に、街を行き交う人々の表情を楽しみながら開放的な空気を味わいたい人々のための空間。カプリの街の発展とともに歩み、進化し続けているグランド・ホテル・クイシサーナ。文化的で、洗練されたその空間はヘミングウェイ、サルトルなどの文人にも愛された。歴史の香り漂う空間で非日常を大いに愉しむ。その甘美なる刺激が数々の名作誕生につながったに違いない。



上：街を行き交う人の表情も楽しいテラス・バー。
下：クイシ・バーは、街の喧騒と隔離された格調高い静かな空間。



サナトリウムからペンション、そして五つ星のホテルへ。150余年の歴史の中で多くの文人に愛されるバーは生まれた。



上：ホテル外観。
下：磨き上げられたサロンの内には目の光がゆふい、心地よい雰囲気を感じる。

野望に燃えた
男の城

ヴィラ・サンミケレ

アタセル・ムンテの在りし日を
偲ぶテーブルの佇まい。

医師、小説家、博愛主義者、自然愛好家、アンティーク収集家、そして恋多き男——、さまざまな顔を持ち、生涯夢と希望が潰えることになかったスウェーデン医師、アタセル・ムンテ。日本ではあまりその名を知られていないが、彼の小説『サンミケレ物語』は、一九二九年に出版されて以来



下：伝統的な様式の石造りの温かな表情に一種透きかたない空気をもちあふらすのは、かつての主のしつらえたアートの数々か。
右：ムンテが愛した風景。その海を見下ろすスフィンクス像。



年、今から百年以上前のことだ。一八七六年、十九歳の時初めてカプリ島を訪れたムンテは、その

美しい自然の虜になつてしまふ。以来、邸宅の構想を練り続けながらもムンテはナポリにおけるコレラ治療で名声を獲得、後にローマで医師として成功を取めて、ようやく邸宅の建設を実現させることができた。

世界四十カ国語以上で翻訳されている大ベストセラーだ。
ムンテは、一八五七年、スウェーデンに生まれた。二十二歳という若さでソルボンスの医学博士となり、ナポリにおけるコレラ治療で精力的に活動、ローマで医師としての名声を獲得している。
スウェーデン生まれの彼が、テイペリウス皇帝の住居跡への私邸の建設に着手したのは一八九六

は、いかに多くの光を邸内に採り込むかということだ。実際、邸内は光に満ちあふれ、自然と建物の境界をまったく感じさせない、自然の恵みを豊かに享受する贅沢な造りだ。
カプリの自然に対する彼の愛は、その頃乱雑されていた野鳥を守るため、邸宅の裏手に位置するバルバロッサ城を買い取り、野鳥の安全な住み家とするほどに深いものだった。

遺跡から発掘された大理石の彫刻が整然と配置された美しい回廊は、季節の花々が咲き誇り、華やかな空間だ。当時のスウェーデン王妃、ヴィクトリアはこの邸で多くの時間をムンテとともに過ごし、時に音楽を楽しんだ。

白壁の邸から望むナポリ湾のきらめきはムンテの尽きることもない愛と野望の源だったのかもしれない。

そんな彼の華やかな成功の裏には、生涯夢と希望が潰れることにならなかつた幸福な家庭への執着、極度の二面性を持つ性格、メランコリー病、そして視力の喪失という波瀾に富んだ人生があった。

その複雑な性格は、二度目の結婚を失敗に終わらせ、幸福な家庭を遠いものとし、孤独な生活をムンテに強いた。そして彼は、禁欲的であることと耽美的な嗜好を満足させることの両方を同時に求めた。貧しい人々に惜しみなく経済的援助を施し、その一方で高価なアンティークを買い集めた。ライスやマカロニ、茹でた野菜などのシンプルを料理を好む反面、それを貴重な十六世紀のアンティークのプレートで飾りつけてみせた。計り知れない才能と造り手もない魅力と備えていながら、気難しく短気で、まるで甘やかされた子供のような一雨も持っていた。世捨て人同然の生活でありながら彼の存在感と影響力は絶大なものだった。

二度目の結婚で生まれた息子のマルコム氏は、ムンテについて、「生まれながらの収集家だった」と語る。あるいは、よりの確に表現するとすれば、彼は強く愛するがゆえの「征服者」であったと。名声、人間関係、物質に対する彼の関わり方はまさに征服者としてのそれであった。そしてこのことは、彼の女性関係がいずれも女性たちにとって不幸な結末に終わっていることを納得させる。ムンテは彼女たちを愛し、彼女たちの愛を手に入れたが、しかしその果てにムンテが味わったものは深い孤独と虚無感だけだった。

結局、ムンテがその強く激しい愛によって手に入れたものすべては、最後には彼から何かを奪い、大きな欠落を残して去っていった。そして、ムンテが愛し、最大限に邸内に取り込んだカプリの光もまた例外ではなかつた。その強い陽射しは、皮肉にもムンテから視力を奪うことになり、彼は「ヴィラ・サンミケレ」を去ることになる。

残されたヴィラはのちにスウェーデンに寄贈され、現在はスウェーデンの文化交流施設、アタセル・ムンテ・ファンデーションとして、一般公開され、定期的に野外コンサートが開かれるなど、彼の著作とともに色褪せることなく世界中の人々に愛され続けている。

白い壁とオブジェの色彩が獨特の雰囲気を作り出す邸内。ムンテが愛した最大限に採り入れた光は皮肉にも彼から視力を奪った。



7世紀もの時を 超えて香る カルトウーシア

移り行く時代の中で、いつまでも変わることなく愛され続ける香りがある。

14世紀、アンジュー家のジョアンナ王妃がカプリに滞在する際、王妃の美しさにふさわしい香りでなくてはならない、サンジャロも修道院長は真実を呼びかけ、息でいもじ入美しい花を探し求めさせた。数日の探訪の果てから見つけた名のない、それでいて太陽と風と海を感じさせる、まさにカプリ島を写し取ったような美しい花々が、王妃へと届けられた。王妃はその花をたいへんに愛し、滞在を通してその花とともに過ごした。そして王妃との別れを惜しむかのように、王妃が去った後も、花々が透けられていた水は芳しい香りをいつまでも発し続け、それが島における最初の香水となったという。

この話は、あくまで伝説上のことで、実際は1940年、同修道院長によって発見された14世紀の古文書が元となり香水製造所が誕生し、のちに世界にその名を馳せることとなる香水は「カルトウーシア」と名づけられ、輝かしい歴史の幕を開けた。

現在もその古文書に記された製法を忠実に守って精製される香水は、カプリに生息するハーブや花々を素材として使用。ほろほろやかな気品あふる香りは、身にまとうたびにカプリの美しい思い出を彷彿とさせる。

カルトウーシアのオーナー、シルビオ・ルオッコ氏は、ピアツェッタ広場のすぐ脇に位置する実店舗も経営している。

形あるものから形のないものまでつねに「美」とともに生きる氏に、美意識について聞いてみた。

「本質的な美というのは、クラシックでシンプルなものだと思います。カルトウーシアの香水ボトルがシンプルであるのもそのためです。単なる装飾としての美は長、時間に入ることができず、いつしか褪れ、別がれ落ちてしまうでしょう。大切なものは、伝統と、それを守り伝える意志なのです。それらによって創造されるものの中にこそ永遠の美が宿るのだと思います」

幼少の頃、アウグストゥス島で過ごし、その島に咲く花の香りがいつまでも心の中に残っていた。それが香水の製造所を始めるきっかけとなった。と語る氏は健気な少年の輝きにあふれる。カプリのオリジナルであることにこだわり続ける氏は、カルトウーシアの香りを誇りにカプリを思い出し、でもえることこそが最高の幸福なのだと語り、穏やかに微笑んだ。



オーナーと愛娘、トージルアさん。カプリには実店舗の名称でもある。



カウンターの中で立ち働くスタッフ。

Il Portico
tel: +39 081 839 5497 email: info@portico.it



上左: バルコニーのテーブルの大理石のテーブル。1930年~30年代 (19世紀)



下左: ミラーノ製のシャンデリア。19世紀



国境なき 美空間の仕掛人 イル・ポルティコ

三代にわたってアンティークに専事することで培った豊富な経験と知識。そして本物を見極める確かな目を持つオーナー兼インテリア・コーディネーターであるアンナ・マリア・コロナートさん。独自の経路ルートを持ち、ワールドワイドなビジネスを展開している。「美とはわれわれの心に感動を呼び起こすものです。幼少の頃からアンティークに囲まれて育って来たものですから、意識する以前から美と対峙してきましたが、現在でもなお、美と向き合う瞬間に何か得たものがない、モーションが湧き上がってくるのは確かです。私にとって美的空間とは、単なる装飾という表面的なものではなく、内面から美を引きだし、増幅させるようであればなりません。美が空間とそこに住まう人間の縁合となって両者を高める。そして深い歴史を刻まれたアンティークがその空間に居ることない美を生み出すのです」

そんな彼女の演出する空間は世界的に評価されており、ジュルジオ・アルマーニ、ジャン・フランコ・フェレなど、トップ・ファッション・デザイナーをはじめトム・クルーズなどのハリウッド・スターに至るまで、多くのファッションリーダーたちの邸宅のインテリア・コーディネートを担当している。



上: イタリア製のランプ (18世紀) 下: 店内



誇り高き 伝統の 継承者たち

Successors of the tradition

カプリは実に小さな島であるにもかかわらず、家々のようにさまざまな名店がいくつも存在している。そしてそれらのドアの向こうでは、島の歴史や伝統を数々の時代へと運んで行くこととする職人たちが、美と向き合っている。そんな彼らが継承者として、日々さまざまな可能性を見いだそうと挑戦を続けていく。そんな彼らに思いがけない思いが、身に付けられるのは、心に魅力を用いる者だけの数々。忘れられない思い出の1ページが、そこから誕生する。



左: 14世紀の古文書に記された製法を守り作られる香水が、フランスでは絶賛されている。
上: 店内の様子

日常における アートの楽しみ ラク・カプリ

イタリアン・デザインの潮流を担う若手アーティストによる遊び心あふれる作品をカプリから発信する「ラク・カプリ」。古典的技術に基づきながらも斬新なデザインの商品は、実用性をも併せ持つすぐれ物ぞろい。ショップ、というよりはコンテンポラリー・ギャラリーと呼ぶにふさわしいその店の名前は、実は日本の漢字から由来する。

「数年前、フィレンツェにある『International Museum of Ceramics』で開催された美濃窯の企画展『Raku A Dynasty of Japanese Ceramics』を訪れて、古典的製法の中の現代性、作品が持つシンプルでフォルムと素材に心を動かされました」と語るのはオーナーのサラ・プレアさん。彼女自身もセラミック・アーティストとして活躍している。

現在の主なコレクションはすべてハンドメイド。ほとんどのガラス作品が、13世紀に始まり古代ヴェネチアン・ガラスの技法を現在まで守り伝えるムラノで創り出されている。

取り扱う作品は、ループをはじめ世界の美術館でその洗練されたラインの芸術性と高い技術が認められているギャラリー「ARCADE」のディレクター・イワン・ハム、ガラス・アーティスト、パオロ・ベネーニを祖父に持つローラ・デ・サンティアーナ、モダン・アクセサリー「Sent」をプロデュースするマリナとスザンナ・セント、そしてサラをはじめとする美濃のアーティストの作品が中心。

イタリアン・デザインと日本の伝統美の幸福な出会い。古今東西の融合によって生まれた新たな意匠が、ここカプリで開花する。



取り扱う作品だけでなく空間にも和洋の融合の趣が漂う店内。



彼女自身もアーティストとして制作するオーナーのサラ・プレアさん。

上左：プッティーニのシンボルでもある12星座のペンダント。組み合わせられた横線は時空で見る若さを返すツボ押しに似ていない。

下左・右：カメオのリングとペンダント。組み合わせられた横線は時空で見る若さを返すツボ押しに似ていない。



Puttini
tel. +39 081 837 8907

世界に唯ひとつ、 特別な人へ贈りたい プッティーニ

母アンジェラさんへの感謝の気持ちを込めて娘アントネツァさんから贈られたハンドメイドのカメオが物語の始まりだった。

以来、「翼のない天使 (Puttini)」という美しいお守りを持つ親子が創造する宝物は、そのデザインもさることながら、素晴らしい品質を誇る世界にたったひとつしか存在しない、まさに「一期一会」の芸術品であり続けている。その中でも、ひとまわりの飾りをつけているのがカメオである。

カメオの起源は紀元前4世紀まで遡る。以来、審美性、耐久性、希少性という三点に加え、その彫刻芸術性によって世界中の人々に愛され続け、熱心なコレクターが多く存在する。プッティーニのカメオのモチーフは神話や伝説はもちろん、カプリの歴史、伝説などから着想を得たものだ。それぞれが固有のストーリーを持ち、決して同じものは存在しない。アルカイック・スマイルをたたえた端正な美女の横顔は謎々しい立体感と覗き込まれてしまいたいような透明感に仕上げられている。「今、私が身に付けているカメオは実は2年前に他界した母へ贈ったものなんです。このペンダントを身に付けていると母に守られているという気がしてなりません。カメオというものはこうして代々受け継がれ、持ち主の特別な思い出やストーリーを呼び覚ますもの。プッティーニのジュエリーがそんな素晴らしい思い出を呼び覚ますきっかけになることができれば、これほど幸福なことはないでしょう。」

古来カメオは持ち主を悪魔から守り、幸運へと導く守護神として大切な人に贈られてきた。カメオの中に宿る物語は、永遠に色褪せることなく、幸福に満ちた新たな1ページを持ち主の生活に書き加えていく。



東洋的な雰囲気のある店のインテリア。



好奇心旺盛で個性的なオーナーのアンジェラ・プッティーニさん。日々新しいデザインのアイデアを求める彼女の趣味は読書だとか。

information

カプリ島観光に芸術的な製品の開発された。その名は「Tiberio」。携帯電話サイズの観光ガイドだ。自分の行きたい場所の情報をすばやくキャッチできるインタラクティブな操作性で、現在向を歩める観光客に大きな反響を呼んでいる。今のところ日本語のガイドは実施されていないが、近々追加実施される予定。詳細はウェブサイト1世広場のアーティスト・インフォメーションまで。

Azienda Autonoma
di Cura Deggiorno e
Turismo
Isola di Capri
tel. +39 081 837 0424
fax. +39 081 837 0918
e-mail: turisoffice@capri.it
www.capri tourism.com

Address: +39 081 837 0145 e-mail: info@rakucapri.it

Raku Capri



上左：モダン・アクセサリー「Sent」のプレスレット。上右：イワン・ハムの花瓶

下左：イワン・ハムの花瓶にはどこかお守りの印象が。下右：美濃窯の器も扱っている。